

YIC 利用案内

行政相談 (毎月 第3日曜日)

13:00~16:00(要予約)



ビザ(在留資格)の申請・変更、在留期間の更新、永住申請、国際結婚、国際離婚、日本国籍取得、帰化申請など行政手続きに関する相談。

2024年度 相談日 (行政相談)

2024年 5月19日(日) 6月16日(日) 7月21日(日)
8月18日(日) 9月15日(日) 10月20日(日)
11月17日(日) 12月15日(日)
2025年 1月19日(日) 2月16日(日) 3月16日(日)

賛助会員

YICの活動にご賛同いただける賛助会員を募集しております。是非ご入会頂き、多くのご支援ご協力を賜りますよう、宜しくお願い致します。

◆年度会員制 ◆賛助会員特典あり

◆会費：個人一口 3,000円 団体一口 10,000円

生活相談

開館時はいつでも受付



生活で困っていること、日本文化で分からないこと、どこに相談すればいいか分からないこと...etc.YICスタッフがうかがいます。

翻訳

YICに登録するボランティアおよび職員が、日本語から外国語、または、外国語から日本語への翻訳をお手伝いします。

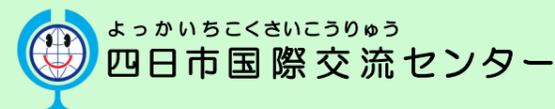
◆翻訳料:1枚(800字程度)につき 2,000円

☆翻訳ボランティアは随時募集中です。どの言語でも登録できます。

日本語サークル利用者数 (令和5年3月~令和6年2月) 四日市市外国人人口数 (令和6年2月29日現在)

活動実数	ボランティア先生120名	学習者 385名
授業延べ回数	4,963回	
学習者地域別	アジア90%、南米4%、北米4%、EU2%	
学習者在留資格別	就労関係61%、家族滞在14%、永・定住13%、配偶者8%、留学1%、その他3%	
学習者年齢別	10代4%、20代52%、30代32%、40代8%、50代3% 60代1%	

国籍	人数	割合	国籍	人数	割合
ブラジル	2,382	19.9%	その他	3,820	31.9%
ベトナム	2,018	16.9%	総合計	11,952	3.89%
中国	1,312	11.0%	市総人口	307,229	
韓国	1,274	10.7%			
ネパール	1,146	9.6%			
上位合計	8,132	68.1%			



Yokkaichi International Center

〒510-0093 三重県四日市市本町9-8 本町プラザ6F

【TEL】059-353-9955 090-6572-9440

【FAX】059-355-5931

【E-mail】yic@yokkaichi-shinko.com

【URL】http://www.yokkaichi-shinko.com/yic/

【開館】9:00~17:00 (月曜日、祝日、年末年始は休館)



国際交流ニュース

SALVIA



No.71/2024.4

発行
公益財団法人四日市市文化まちづくり財団
四日市国際交流センター
Yokkaichi International Center

令和5年度 YIC日本語サークル発表会

現在、約250人の外国人がYIC日本語サークルにて日々熱心に日本語を学習しています。令和6年3月10日(日)、日頃の学習の成果を9人の学習者が、母国と日本の生活・教育の違い・自身の夢などについてスピーチしました。家族・友人や日本人ボランティアら47人が聴講しました。

【日本の生活について】



マイさん
(ベトナム)



プレゼンテーションとても楽しく興味深かったです。とても勉強になりました。有益なイベントを行っていただきありがとうございました。



【私のこと】



ニダさん
(スリランカ)



日本語のスピーチは、初めての経験でしたので緊張しましたが、とてもおもしろかったです。ありがとうございました。

【夢の形】



アフィカさん
(インドネシア)



初めての経験で緊張しました。覚えたことがバラバラになり全部話すことができませんでした。でも、楽しかったです。また参加したいです。

【未知の未来】



ニッキーさん
(アメリカ)



人前で話すことは怖かったけど、一つ乗り越えられた気がします。一歩前に進むことができました。

【日本の日常生活について】



ズオンさん
(ベトナム)



練習したのに、緊張して内容を忘れてしまいました。みなさんに話ができうれしかったです。また来年参加するので、どれだけ成長したか見てください。

【ベトナムと日本の生活の違い】



ティンさん
(ベトナム)



最後まで緊張していました。話すことができよかったです。みんなとても上手に話していたので、もっともっと勉強しなければいけないと思いました。

【インドネシアと日本の違い】



アルファンさん
(インドネシア)



楽しかったです。緊張はしませんでした。まだ話したいことがあるので、また参加したいです。

【アメリカと日本の教育の違い】

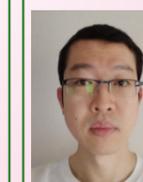


ニックさん
(アメリカ)



緊張しましたが、みなさんの発表を聞いて少しリラックスできました。もっと練習すればよかったけど、今日のスピーチはOKでした。

【私の人生】



オーランドさん
(ブラジル)

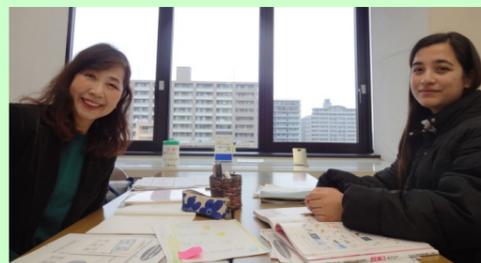


とても緊張しました。発表が最後だったので、緊張している時間も長かったです。話したいことを全部話せませんでした。

YIC日本語サークル

四日市国際交流センターでは、日本語ボランティアと外国人学習者が日本語を勉強する「YIC日本語サークル」を毎日開催しています。学習者のニーズに合わせてマンツーマンで勉強しています。

私のボランティア活動



日本語を話そうよ！

浅野順子さん(写真【右】) 学習者：クマリさん

ネパールから来日して、学習を始めて半年ほどのクマリさんは、私が話す数少ないヒンディー語に即座に笑顔で反応してくれる、とてもチャーミングな女性です。徐々に日本の生活にも慣れ、最近になって彼女から「アルバイトをしたい」とのニーズが聞かれました。現在は、4技能のうち「話す」に特に焦点を当て、学習シラバスを構築しています。「声を出してアウトプット！」というアプローチは、理解だけではコミュニケーションが

取れないという考え方に基づいています。特に日本語での日付の表現が難しいようで、スタッフの方々に次の予約を伝える際、「〇日、〇時〜」といった表現が苦手の様子。彼女が口の中でモゴモゴと独自のアプローチで克服しようとしている姿勢が微笑ましいです。笑いと学びが結びつき、より日本を好きになってくれることを期待しています。

日々トライ&エラー

廣田美樹さん(写真【左】) 学習者：フィリップさん

約20年前に通った日本語教師養成講座の遠い遠い記憶をたどりながら、これまで3人の生徒さんの授業を担当しました。日本語をほとんど話せない生徒さんには身振り手振りで教えたりして、授業の時に役者になる恥ずかしさを未だ捨てきれずいます(笑) まだまだ未熟な私ですが、先日ある生徒さんから『私の最初の日本人の友達』と言ってもらい嬉しかったなあ…。日本語が話せるようになることと人の距離がグッと縮まり、モチベーションも上がります。日々トライ&エラーでこれからも頑張ります！



気軽に話しかけて！

伊藤繁明さん(写真【左】) 学習者：マウンさん

10年くらい前に勤めていた会社に多くの技能実習生の人がありました。しばらくして仕事の関係で仲良くなり、YICで日本語を勉強している人もいたのでそれ以来こちらでお世話になっています。最初は戸惑いもありましたが、ある先生が学習者たちと笑顔で話しかけているのを見て、その時考えました。教えるといっても親しい友だちとしてつきあえたらいいなと思っています。せっかく縁あって日本に来たのだから、色々経験して少しでも楽しく生活して欲しいです。もし顔を合ったら、気軽に話しかけてください。

外国人の手助けになることをしよう

渡辺利裕さん(写真【左】) 学習者：ソピアさん

私は13年間の海外勤務を終え2017年夏に帰国しました。私が他国にて外国人として生活してきた中で頼りになったのは現地の方々の助けでした。クーター発生時、病気になったとき、銀行口座関連トラブルの解決などです。特にクーター(未遂でしたが)発生時は現地語放送がなく状況把握ができません。現地の方々の助けなしでは身の安全は図れません。帰国した際、「日本にいる外国人の方々の手助けになることをしよう」という気持ちが自然と湧きYICを訪問していました。インドネシア、台湾、ベトナム、バングラデシュの青年たちと日本語を勉強(日本語を教えるだけでなく教えられることも多々あり)してきました。今はインドネシア人のシティ ソピアさんと日本語を勉強しています。



学習者紹介

- ①なまえ
- ②国名
- ③日本に来ておどろいたこと
- ④日本語で好きな言葉

  <p>①ルーカス ②ブラジル ③どの家にもお風呂場がある。ブラジルではシャワーだけ。 ④「あらあら」(ブラジルではほかのおもしろい意味がある)</p>	  <p>①ギミレ ②ネパール ③雪を見たこと。電車が走っていること。 ④「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」</p>	  <p>①クリスティーナ ②バルバドス ③バルバドスには電車がありません。日本に来て新しい生活が始まった。 ④「あたたかかった」(難しい発音だが喜んで)</p>	  <p>①カンディア ②チリ ③夏がとても蒸し暑い。町がきれい。 ④「ありがとうございます」(感謝の気持ちを表す)</p>	
  <p>①ジョーディン ②アメリカ ③中学校のシステムがアメリカとずいぶん違ってのこと。 ④「やばい」「ごろごろ」(音がおもしろいし、週末はごろごろしているから)</p>	  <p>①ソン ②中国 ③春になるといろんな所できれいな桜がみれることです。 ④「よろしく願いします」(やさしい気持ちになれます)</p>	  <p>①フィリップ ②南アフリカ共和国 ③現金を使って買い物すること(南アフリカではカード支払いが普通)あらゆる場所が静かなところ ④「ごろごろ」(音の感じが好き、おもしろい)</p>	  <p>①リリバス ②フィリピン ③地震が多い。全国にたくさん自動販売機があり、びっくりしました。 ④「ありがとう」(それだけで誰かを幸せにできる。この世界に当たり前のことなんてない。だからちゃんと言おう)</p>	  <p>①フィリップ ②ナイジェリア ③みんな優しい ④「やばい」(いいとき、悪いとき、どんなときも使うから好き)</p>
  <p>①ソペア ②カンボジア ③冬がとても寒いこと。 ④「挨拶の言葉」(仕事の前に使います)</p>	  <p>①モジノ ②バングラディッシュ ③ごみの分別をしっかりとやっていること。 ④「ありがとうございます」(きれいな言葉だから)</p>	  <p>①アーリヤー ②タイ ③電車が時間通りにくること。雪を初めて見たこと。 ④「かわいい」「おいしい」「すごい」「きれい」(全部かわいい言葉だから)</p>	  <p>①マウン ②ミャンマー ③車です。私の国は右が走ります。日本には左が走ります。 ④「よろしくおねがいします」(気持ちがいいです)</p>	  <p>①スワン ②ベトナム ③交通ルールを順守している。道もとてもきれい。日本人は社交的です。 ④日本語が好きです。そして日本語はとてもおもしろいです。</p>
  <p>①ロピ ②インドネシア ③冬は気温が低く雪が降ります。とても寒いです。 ④「おいしい」「うまい」(食べるときにそういう人が多いです)</p>	  <p>①ニナ ②台湾 ③四季がはっきりしている。咲いている花や店の商品が季節によって変わる。 ④「よろしく願いします。」「お疲れ様でした。」「感謝の気持ちを表すことはとても大切だから」</p>	  <p>①シャシカラ ②スリランカ ③新幹線が早くてびっくりした。料理がおいしく、ラーメンが好き。 ④「赤ちゃん」(かわいいから。言い方もかわいい)</p>	  <p>①サリータ ②ネパール ③交通の便がとてもいいこと。道に出店や屋台が常設されていないこと。 ④「なに」(ネパールでは自分より年下の身分で大好きな人のことを「ナニー」と呼ぶので音と同じだから好きです)</p>	  <p>①サディ ②パキスタン ③買い物に行ったとき、果物や野菜はkgではなく個数で販売されていること。 ④「がんばって！」(相手の人のことを思って、応援や励ましの気持ちを届けることができるから)</p>

令和5年度 イベント

令和5年度は19回のイベントを開催し、948人の方に参加していただきました。おもなイベントをピックアップしてご紹介します。新年度も、より多くの面白いイベントを計画しております。皆さんの継続的なご支援とご協力をお願いします。

【コーヒープレイク】四日市メリノール学院留学生 2023年6月17日 参加者38名



アメリカ・ノースカロライナ州の四日市メリノール学院留学生リリー・ベインさんを講師に迎え、故郷の観光スポット・大学・自然災害・食品・人気のレストランなどを100枚を超えるスライドを見ながらお話していただきました。

(参加者からの感想)

- とても楽しくエンジョイしました。初めて聞く事ばかりでサウスアメリカに行きたいと思いました。
- クイズを交えてわかりやすく解説していただきました。
- 英会話は得意ではありませんが、英語を「浴びる」良い機会でした。

【国際理解講座】韓国料理教室 2023年6月15日・22日 参加者25名

当センターの外国語講座ハンブル講師の唐相姫先生による韓国料理教室を開催しました。講師から韓国の文化や習慣を聞きながらキンパブ(のりまき)・エゴマの葉を使ったジョン・センソンチゲ(魚の鍋)を作っていただきました。参加者からは「本格的な韓国料理が覚えられて良かった」「思ったほど辛くなくて食べやすかった」などの感想が寄せられました。



YIC子どもフェスティバル 2023年8月2日・3日 参加者220名



次代を担う子どもたちと四日市市に住む外国人が交流を深めるイベント「YIC子どもフェスティバル」を4年ぶりに開催しました。参加した子どもたちは、外国語講師・日本語サークル学習者・三重県国際交流員などの外国人と一緒に「フェイスシール」「ペットボトル輪投げ」「オリジナルうちわ作り」「英語による読み聞かせ」「クイズコーナー」を体験しました。また、クイズの参加者には、ロングビーチ市提携60周年缶マグネットをプレゼントしました。



【国際理解講座】ウクライナ料理教室 2023年10月19日・26日 参加者19名

当センターで日本語学習しているウクライナ・スムイ出身のポノマリョヴァ・アンナさんによるウクライナ料理教室を開催しました。ウクライナが起源の「ボルシチ」は、く隠し味にバターを入れるとまろやかになる」とコツを紹介していただきピーツやじゃがいもなどの材料を煮込みました。餃子のような「ヴァレーニキ」は小麦粉で生地から手作りしていただき、朝食やデザートとして食べることの多い「シルニキ」の三品を作っていただきました。料理を食べながらアンナさんのウクライナの歴史や戦争終結への願いなどをお話していただきました。参加者からは「アンナさんのお話を聞きながら作ったからか、ウクライナを身近に感じた」「料理の素材の味が生きていて美味しかった」などの感想が寄せられました。



【国際理解講座】インドネシア 2023年11月19日 参加者28名

日本と60年以上にわたり伝統的な友好国であるインドネシアの魅力を日本語サークル学習者のダニエルさん・リリさん・バユさん・ドニさんにお話していただきました。ギターを演奏しながらインドネシアの名曲を歌ったドニさん、観光名所を紹介したダニエルさん、独立記念日に行われるゲームを動画を交えて説明したバユさん、インドネシアの美味しい食べ物をリリさんが紹介しました。終了後、インドネシアで有名なダンスを全員で踊り交流を深めました。



【国際理解講座】ベトナム・ペルー 2024年2月2日 参加者115名



四日市市立西笹川中学校の体育館で国際理解講座を開催。ベトナム出身の清川さんが首都ハノイ・ホーチミン・ダナンの観光名所から学校・結婚式・お正月の様子など写真を見ながら解説。後半はペルー出身の古川マリアさんがインカ帝国時代の三つのルールやスペインによる侵略で言葉や宗教・習慣などが変わったことを解説。最後は生徒の皆さんがペルーの民族衣装を身につけて記念撮影をしました。



【コーヒープレイク】アメリカ・アラスカ州 2023年3月3日 参加者43名



市内の小中学校での外国語指導助手をする傍らYIC日本語サークルで日本語の学習をされているアラスカ州出身のアンダーソン・ライアン・アイリーンさんを講師に迎え、アラスカ州の幅広い話題をゼスチャーを入れて分かりやすく講義していただきました。また、日本とのつながりや歌声も披露していただきました。

(参加者からの感想)

- たくさん動画や写真があり良かったです。初めて聞くアラスカの情報等もあり良かったです。
- アンダーソンさんの話はとても興味深くアラスカを愛していることがよく伝わりました。ここまで母国の文化を理解し、他国の人たちに紹介できることが素晴らしい、アラスカにとても興味を持つことができました。

令和5年度 外国語講座



令和5年度の外国語講座は、3期にわけて、英語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・中国語・ベトナム語・タイ語の講座を行い、326人が受講しました。新年度も、引き続き3期に分けて市内に住む外国人市民の母語を学習する機会づくりに努めます。

YICのラウンジ壁面を利用して、プチ展示会を行いました。令和5年度は、外国人の故郷である「スリランカ」「ウクライナ」「インドネシア」を紹介するとともに「クロスステッチ」「銅板」「書道」などの作品を月替わりで展示しました。



スリランカ



クロスステッチ



ウクライナ



銅板



ラウンジ展示

2023交換学生・教師(トリオ)ロングビーチ市へ

四日市国際交流センターでは、四日市市からの委託を受け姉妹都市米国ロングビーチ市へ4年ぶりに高校生2名(学年は派遣当時)と教師1名(通称「トリオ」)を7月下旬から約3週間派遣しました。



市川和希

神前小学校教諭

ロングビーチ市での経験を未来につなぐ



長年の夢だったロングビーチ市への訪問。月日が経った今でも昨日のこのように鮮明に思い出されます。現地滞在中の3週間は、毎日が新鮮で大変刺激的でした。なかでも、ホストファミリーや姉妹都市協会の方々とお会いすることが私にとって一番の宝物です。私たちトリオを温かく迎え入れ、本物の家族のように愛情いっぱいに接していただきました。まるで、アメリカにも家族ができたかのような気持ちになりました。今すぐにでも会いに行きたいくらい大好きな方々です。

昨年は、姉妹都市提携60周年という記念すべき年だったこともあり、11月にはレックス・リチャードソン市長や姉妹都市協会会長のマイク・ヴォーンさんらが、四日市市に来てくださいました。帰国から3カ月足らずで、再会することができ本当に嬉しかったです。ロングビーチ市でたくさんおもてなしをいただいたので、少しでもそのお返しができたらという思いでいっぱいでした。

今後の私の使命は、本事業を通して経験してきたことをたくさんの子供たちや共に働くなかまに伝え続けていくこと。ロングビーチ市のみなさんと交流を続けていくことで姉妹都市のつながりを深め、未来へとつないでいくことだと思っています。いつか教え子がトリオとして、ロングビーチ市へ訪問する日が来ることを夢見て、これからも自分自身の経験を語り続けていきたいです。



生駒 亜子

四日市高等学校1年

人とのつながりが世界平和へ

私は今回の経験を通して世界全体を身近に感じました。今まではアメリカというと遠く離れた憧れの土地という感じがして同じ地球だけでも、なんだか物語の中のように掴みどころがない、そんな場所でした。けれども、実際に行ってみると喋っている言葉は違ってても、人はみんな温かくてくだらないことで笑い合うことができます。私は私を家族のように迎え入れてくれた人々のおかげでもう一つ家が増えたような気持ちになりました。



そしてきっとこれは世界中どこに行ってもそうだと思います。どれだけ国として対立しようとして互いを愛することは十分にできる、今回の経験はそんな可能性を大いに示してくれました。そしてこの可能性をより多くの人々が感じることができれば、世界平和には程遠くても人々の心の中の世界平和を望む気持ちは絶えないでしょう。その上で私はこの姉妹都市提携は素晴らしいものだと思います。外交ではない、「姉妹」としての都市間の交流は双方の都市に深い人間としての繋がりをもたらしてくれるはずなんです。

60周年を迎えた四日市市とロングビーチ市の姉妹都市としての交流がこれからもさらなる豊かさをもたらすことを私は確信しています。



森 直央

海星高等学校1年

今回の経験から学んだこと

約3週間ロングビーチ市に滞在し、たくさんの経験をさせていただきました。その中でも印象に残ったことを二つ紹介したいと思います。

一つ目はフレンドリーで温かい人ばかりだったということです。みんな元から友達だったかのように接してくれて、私はそれがすごく嬉しかったです。日本人は比較的シャイな人が多いので日本もこんな風になったら素敵だなと思いました。また、自分自身がもっとフレンドリーで社交的な人間になりたいと思いました。

二つ目は色々な人種の人々がいたということです。このことは滞在前からもちろん知っていましたが、いざその空間に飛び込んでみると不思議な感覚を覚えました。色々な人種の人がいるということは色々な文化があるということでもあります。みんなそれぞれ個性のある髪型や格好をしていて、己のスタイルを貫いていました。人の目を気にせず好きな格好で自分らしく過ごすというのはなんかいいなと感じました。

一方、やはり人種差別がまだあるということも聞きました。「昔よりは減ったが、アジア人や黒人に差別的な発言をする人はまだまだいる」とホストファミリーから聞きました。「人種差別」という問題を身近に感じる事ができ、私たちには何ができるのだろうと考えるきっかけになりました。

今回の滞在を経て、このように実際に行ってみないと分からないようなことをたくさん知ることができました。とても楽しく、有意義な3週間でした。このプログラムに参加して良かったと心から思います。この貴重な体験を無駄にせず、今後の両市の発展や自分の将来に役立てられたらと思います。



ロングビーチ市との提携60周年をお祝いしました！

四日市市は、1963年に米国ロングビーチ市と姉妹都市提携を結び、昨年は記念すべき60周年を両市でお祝いしました。

まず、8月に本市から、市長、議長ほか計6名がロングビーチ市を訪問し、現地で開催された記念式典をはじめ数々の行事に出席しました。下の写真(左)は、ヨッカイチ・フレンドシップ・ガーデンでの覚書署名式の様子で、両市は、これまでに育んできた教育、文化、医療、環境などの交流をさらに発展させ、未来に向かって手を携え、より一層友好の絆を深めていくことを確認しました。

また、11月には、ロングビーチ市からレックス・リチャードソン市長、マイク・ボーン姉妹都市協会会長ほか計13名を受け入れ、記念レセプションや霞ヶ浦緑地内に新設した記念遊具完成式などに参加していただきました。写真(右)は、両市の市長が参加したB1グランプリの様子です。リチャードソン市長にとって、四日市とんてきは初体験でしたが、とても気に入っていただけようです。

コロナ禍で中断していた両市間の往来も再開され、互いに多くの市民と交流できる機会となり、今後の交換学生・教師の相互派遣、地球環境塾及び英語指導員の受入、市立病院医師の派遣等の事業へのよい弾みとなりました。



「四日市市国際交流基金」へのご寄付のお願い

「四日市市国際交流基金」は、四日市市の国際性と市民の皆様との国際感覚を高めることを目的とし、姉妹都市・米国ロングビーチ市や友好都市・中国天津市との青少年の交流事業などに活用しています。基金の趣旨をご理解いただき、皆様のご協力をお願いします。

【問い合わせ】四日市市秘書国際課

☎059-354-8097

